

CBAP®認定 合格体験記

株式会社フォースウェイコンサルティング

田中 義徳

私は自身でコンサルティング会社を経営しており、これまでの知識の体系化を行い、より高い品質のコンサルティングサービスをお客様に提供していくことを目的に CBAP®を受験致しました。

受験にあたっての注意点や手続き等は、IIBA 公表の資料、諸先輩方の書籍や合格体験記で十分にカバーされていると認識しておりますので、私は工夫した勉強法を中心に記載致します。

私が CBAP®の勉強で工夫した点は以下の通りです。

1. まずは受験日を決める
2. 全体を通しての勉強方針を決める
3. 勉強を始める前にアセスメントを解く
4. 自分の勉強方針に合う教材を選ぶ
5. 解いた問題の記録方法を工夫する
6. 全体像を意識しながら勉強を進める

1. まずは受験日を決める

勉強を効率的にかつ効果的に行う秘訣は、まず受験日を決めることだと思います。当たり前過ぎますが、意外に勇気がいることではないでしょうか。

受験日が決まると、もう逃げ道がなくなります。今まで理解できていなかった論点を放っておくこともできなくなりますし、日頃の生活でも受験を強く意識するようになります。受験日は余裕がまったくない日程も良くありませんが、余裕があり過ぎるのもかえってモチベーションが下がると考え、ちょっと頑張らないと間に合わないくらいの日程を設定しました。

また出来ればその受験日の直前数週間にしっかり勉強時間を取れるようにしたいと考え、仕事が少し落ち着く期間である 8 月末を選択しました。この日程を選んだことで、重要論点や暗記部分の総復習をしっかり行うことができました。

2. 全体を通しての勉強方針を決める

勉強を開始するに当たっては、自分がどのような方針で勉強をしていくかということを決めました。ここで私が考えたのは、CBAP®の受験では、受験範囲の中で理解できていない部分を理解し、そ

ここに資源を集中配分していこうということでした。ご存知の通り CBAP®の受験には過去 10 年間で 7,500 時間の実務経験が求められます。つまり、出題される受験範囲のうち、勉強をしなくても自分が十分に理解している部分と、もしかしたら 7,500 時間超の実務経験の中で一度も経験をしていないような未知のエリアがあるかもしれないと考えました。

ここで思いついたのが、会計監査で活用されている「リスクアプローチ」という手法でした。簡単にいうと、効率的に監査を行うために、リスクが高い部分を特定して、そこに資源を優先配分するという考え方です。私はこのリスクアプローチが、CBAP®の勉強にも有効だと考えています。

資格試験でのリスクは、当然不合格になること、つまり自分の点数が合格点に届かないリスクです。リスクアプローチでは、この合格的に届かないリスクが存在する分野を出来るだけ早めに把握し、そこに優先的に資源(お金や時間など)を配分することで効率的に不合格のリスクを減らしていきます。

3. 勉強を始める前にアセスメントを解く

教材を使用して勉強を始める前に、『CBAP®/CCBA™ Certified Business Analysis Study Guide』という書籍についている 100 問程度のアセスメントテストで事前知識の確認を行いました。これはつまり知識エリアごとの事前リスクの測定ということになります。まだ具体的な勉強を始めていないので、当然わからない問題ばかりですが、それでも”Elicitation”と”Enterprise Analysis”は比較的高い得点だったり、”Requirements Analysis”はほぼ全滅だったり、知識エリアによって理解度に差がありました。つまり知識エリアによって、リスクに大きな差があることがわかり、自分がどの知識エリアに力を注ぐべきか方向性が見えました。

4. 自分の勉強方針に合う教材を選ぶ

(1) IIL Japan 社の CBAP® boot camp

その後、いよいよ本格的に勉強を始めましたが、私はテキストを 1 ページずつこつこつ読んでいけるようなタイプではないので、まずは要点をまとめて教えてもらえる通信コースがないかと考え、IIL Japan 社の CBAP® boot camp を受講しました。各知識エリアの要点をまとめたパワーポイント形式のスライドを用いて、解説をしてもらえたので、全体像の把握と重要論点の把握を効率的におこなうことができました。また Web ベースで自分の都合に合わせてどこでも受講できたので、非常に効率的に勉強を進めることができました。

(2) 『CBAP®/CCBA™ Certified Business Analysis Study Guide』の付属問題

その次は『CBAP®/CCBA™ Certified Business Analysis Study Guide』^注に付属の知識エリアごとの確認問題や模擬試験を活用して、知識エリアごとの理解度を確認し、理解度が低い(リスクが高い)知識エリアについては、『BABOK®ガイドVer2.0』を読み込みました。このように、問題を解きながら理解度が最も低い(リスクが高い)知識エリアを確認し、その知識エリアの理解度を上げて、まんべんなく不合格のリスクを下げていくという勉強方法を繰り返しました。

5. その他気を付けた点

(1) 解いた問題の記録方法を工夫する

選択式問題を解く際に工夫したのは、その記録方法です。

私は問題を解いた結果を○、△、×という3つの記号の種類で記録するようにしました。

ここで△とは、解答に自信がなかったけれど、結果的に合っていたというパターンです。

よって、記録は以下の3パターンになります。

解答に自信があって、結果もあっていた問題⇒○

解答に自信がなくて、結果が(たまたま)あっていた問題⇒△

結果が間違っていた問題⇒×

×がついた問題は当然、理解が出来ていないということですが、△がついた問題も実際には知識が浅い場合が多かったので、まず×を優先して理解度を高め、その次に△の部分の理解度を高めるという優先順位で勉強を進めました。

(2) 全体像を意識しながら勉強を進める

全体像の中でどの辺りの勉強をしているのかということもかなり意識しながら勉強を進めました。とくにBABOK®の各知識エリアは相互に関連している場合があり、全体像を意識しながら、その中で今どの部分の勉強をしているのかという意識はとても重要だと思います。

具体的に私が工夫したのは、勉強をする際にはテキストや問題集の脇に『BABOK®ガイドVer2.0』の目次をコピーしたものを置いておき、その目次の中で「今この部分の勉強をしている」と確認しながら勉強を進めました。

私がCBAP®の受験勉強に際して工夫した点は以上となります。我流の勉強方法でしたが、幸運にも初回の受験でCBAP®に合格することができました。これから受験される方の一助となれば幸いです。

^注 邦訳『BABOK®ガイド完全準拠 CBAP®/CCBA™ビジネスアナリシス認定スタディガイド』
(上下巻) トリフォリオ刊